**布施　夢荻 （ふせ・むてき）**

**１、プロフィール**

大正８年７月、淡谷悠藏が中心となって創刊した「黎明」の発刊同人となり、「郷土文学」振興運動に参加した。

＜生没＞

1895（明治28）年４月25日 ～ 1922（大正11）年９月21日

＜代表作＞

『ふるさと』

＜青森との関わり＞

下北郡川内町生まれ。蛎崎小学校で代用教員を務め、後に青森市で薬種商を営む。

**２、作家解説**

本名は吉蔵で、明治28年に川内町で生まれ、明治42年３月に脇野沢尋常高等小学校を卒業する。同年４月に青森中学に入学するが、病気のため２年を修了して退学し、母校の蛎崎小学校の代用教員として奉職する。

大正３年４月、青森県立畜産学校獣医科に入学するが、またも病気のため２年を修了して退学する。

大正７年から佐野泡明らが青森市で創刊した雑誌「樹焔」に、夢荻の名で歌を発表し始め、大正８年、「黎明」の発刊同人となる。大正９年、青森市三上町に薬種商を開く。

大正11年、享年27歳で死去。青森メソジスト教会で葬儀を行い、栄町共同墓地に埋葬された。

**３、資料紹介**

〇『ふるさと』

図書

1922（大正11）年11月20日

158mm×112mm

「黎明」１１月号特別号として発刊され、中扉に、布施夢荻遺稿「ふるさと」と記され春子夫人の歌２首が掲載されている。

「布施君を憶ふ」の章に、知友９人の歌18首が置かれ、夢荻の歌は大正７年から11年までの173首が収められている。